

令和6年度 学校評価書

えびの市立真幸中学校

評価基準(数値): 4…よくあてはまる(8割以上) 3…だいたいあてはまる(5~8割未満) 2…あまりあてはまらない(2~5割未満) 1…まったくあてはまらない(2割未満)

評価基準(記号): A(期待以上)…3.5以上 B(ほぼ期待通り)…2.5以上 C(期待を下回る)…1.5以上 D(改善を要する)…1.5未満

項目	教育目標達成のための具体的な取組			生徒	保護者	教師	学校の自己評価コメント		自己評価	関係者評価	学校関係者のコメント	
未来につながる学力向上	「ひなたの学び」を意識した授業改善と問題解決的な授業実践	探究活動の意識化と「主体的・対話的な学び」の実践		3.2	3.2	3.0	教師の「ひなたの学び」(ひとりひとりが問い合わせをもち、なかまとなつて学び合い、たかめよう深く考える力)を中心とした授業展開のもと、生徒も主体的に学び、生徒相互に対話的に学び合うことが、概ねできたと言える。今後のそれぞれの教科の特性に沿って、学習過程の工夫に努めていきたい。		B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少子高齢化が進行する今日、「郷土愛・地域愛」を醸成する教育は不可欠と思う。 ○ キャリア教育、ボランティア活動は、学校と地域社会をつなぐ「掛け橋」となる。 ○ タブレット・パソコンの活用について生徒の理解度、活用方法等の進捗にズレがあるかもしれないが、度合いに応じて進めていただけたらありがたい。 ○ 今後の中学生の探究活動に期待します。 ○ タブレットパソコンで自分で調べて先生や保護者に発表するところを見て感心しました。 	
	「個別最適な学び」を意識した基礎・基本の定着	TPCの活用と各種テストの分析・活用		3.2	3.2	2.8	プリント等による確認テストなどで生徒個々の基礎・基本の定着を図ることができた。また、タブレットパソコンの活用について、生徒個々のペースにあわせた学習などの効果的な活用方法について、ICT支援員の支援をもらいながら今後高めていく必要がある。					
	えびの学を中心とした郷土学習及び小中連携の推進	地域の人材や資源の活用と「合同研修会」の充実		3.4	3.4	3.0	総合的な学習の時間の年間計画に沿って、えびの学を中心とした郷土学習を行うことができており、生徒はそれぞれの学年の目標を達成することができている。真幸中学校校区の3校による合同研修会では、お互いの課題等を共有しながら、共通に実践することができている。今後も生徒が主体的に探究できる授業を展開していきたい。					
様々な教育活動を通しての心の教育	一人一人を生かした教育活動を通じた積極的な生徒指導	達成感や成功体験をもたせる学校活動の工夫・充実		3.6	3.4	3.2	学校行事を中心に生徒の主体的な活動を通して達成感や成功体験を味わうことができた。今後も一人でも多くの生徒が主体的に活動できるよう、時と場面に応じて生徒に任せせる場面を増やしていきたいと考えている。		B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 希薄化する人間関係の中で悩み苦しむ生徒達に対して「個別的・多面的」な対応が必要と思う。 ○ 情操教育の在り方を検討して欲しい。 ○ 主体的な活動、リーダーシップをとって行事・企画を進めることは大切なことと考えます。今後も機会あるごとに生徒の自主性を尊重して欲しいです。 ○ 生徒が主体的に取り組む姿が目立つようになりました。 ○ 体育大会や文化発表会などで生徒がよく話し合い、成功に向けて協力している様子を見て成長を感じました。 	
	多面的な生徒理解と組織的な教育相談等による居心地のよい学校づくり	悩みや困り感のある生徒への早期対応を目指した体制づくり		3.4	3.1	3.2	昨年度に比べ、不登校生徒は減少している。また、年間計画に沿った教育相談の実施により、生徒個々の悩みや困り感の改善を行うことができている。今後も生徒の将来につながる視点を大切にした生徒理解を行っていきたい。					
命を守る意識と健康教育	部活動の新しい提案～全員参加型、ユル部活動による運動習慣作りの推進	生涯スポーツとしての運動体験の提供と体力向上の取組		3.4	3.0	2.4	学年によっては、昼休みに「みんなで遊ぶ日」を設け、運動場にて運動をしている場面が見られる。また、本校の校内(拠点校部活動含む)の部活動加入率は14%、校外の地域活動への加入率は4.9%という現状である。このような現状とともに、将来を見越した部活動(拠点校部活動)や地域部活動移行に向けて取り組んでいく必要があると考える。		B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命の大切さが軽視されがちな「風潮」が多く見られる。命の尊厳については「全教育活動」を通して実践されるべきと思う。 ○ 「みんなで遊ぶ日」について同学年だけではなく、1~3年までが同調することは色々なことを学んだり、協調性を身につけることがあると思う。 ○ スポーツにより心身が健全に成長していくことを願います。 ○ 文化系の部活動がないため、吹奏楽部は市内で1つでもよいのではないかと思います。練習場所は文化センターでもよいのではないか。 ○ 病欠した生徒が多い時などは、たくさん給食が残り、満腹でも完食のために食べないと聞きました。健康のために良いとは思えません。改善して欲しいと思います。 	
	防災教育や交通安全規則の遵守等を通しての命を守る危機管理能力の向上	避難訓練等危機管理に関する行事や活動の工夫・推進		3.6	3.2	3.4	登下校時における自転車通学生徒の怪我は、年度初めに数件発生したが、大事には至っていない。また、通学路危険箇所点検を通して、生徒には具体的に意識づけをさせることができている。今後も、自分の命は自分で守れるような意識付けを続けていきたい。また、荒天時における登下校の対応については、今後も柔軟に対応していきたい。					
	自らの食や健康を管理する意識と、よりよく改善する能力の向上	日常における健康管理への意識化をはかる手立てと家庭との連携		3.4	3.3	2.9	給食は概ね毎日完食されている。今後も、将来をイメージさせた生徒の健康意識を高めていく取組を継続させていきたい。また、啓発活動が確実に生徒・保護者に伝わるような工夫にも取り組んでいきたい。					
服務規律と人材育成	職員同士が互いに尊重し、サポートし合える、風通しのよい職員室の醸成					3.2	職員相互の得手・不得手をもとに、職員個々の能力が発揮しやすい分掌部などの取組を中心に、年齢等に関わらず、お互いの考えを尊重し、相談しやすい職場づくりを引き続きさせていきたい。		B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職をめざす学生が減少する中、教員不足が「社会問題化」してきた。このままでは教育の質が低下することは必至となる。 ○ 業務全般を見直す絶好の機会ではないだろうか。 ○ 授業以外の他の業務が多く、ストレスがたまりやすい職場だと思います。時には「てげてげ」ということもあってよいのではないか。 ○ 教職員の人数が減り30人学級が難しくなっています。先生方の負担が増えるのは良くないと思いますが30人で1クラスというのは、見直す時期がきているのではないかと思います。 	
	教育公務員としての意識の高揚と、法令遵守の徹底					3.8	教育公務員として、また、人として当たり前のことが当たり前にできる原点の意識を忘れずに、今後も法令遵守をもとに行行動していきたい。					
	新しい研修制度の活用とOJTの推進、職員のキャリアアップの推進					2.8	今年度から本格的に開始された研修制度の活用を浸透させていきたい。若手、中堅、ベテランのそれぞれが生かせる職能を、それぞれが得意とする職能をお互いに共有し、組織として高められる組織にしていきたい。そして、本校に限らず、次校でも生かせる力をつけていきたい。					